

各種顕微鏡から取得したアナログ画像を、再現性のよい画像モニタリング、画像加工、画像解析、立体画像構築、画像出力などの工程に必要な最新機器で、デジタル画像化できる装置を設置している。

また、3D 骨質骨形態計測ソフトを有しており、骨断層像を基に海綿骨の3次元ネットワーク構造を解析できる。大型プリンターを設置しており、論文発表等の資料作成まで一貫して行うことができる。



骨質骨形態計測ソフトウェア TRI/ 3D-Bon (ラトックシステム)

形態系研究施設に常設のマイクロフォーカスX線CTで撮影した画像から、骨質、骨密度、骨形態等の画像解析ができる。



大型プリンターMAXART PX-10000 (EPSON)

最大で約 1.12m×2.5m のポスター印刷ができる。



顕微鏡画像入力装 Mac (オリンパス)

光学顕微鏡画像をハイビジョン静止画カメラでコンピュータに取り込める。